

## 単元指導計画 2年生「スーホの白い馬」

### 【単元の目標】

出来事の順序に気をつけたり場面の様子を想像したりしながら読み、物語を楽しむ。  
語や文としてのまとめりや内容、言葉の響きなどを考えながら声に出して読む。

### 【単元の評価規準】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に対する知識・理解・技能
・「スーホの白い馬」を楽しんで読み、想像した様子をおうちの人に伝えようとしている。	・物語の展開に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み、言葉の響きなどを考えながら声に出して読んでいる。	・姿勢良く、友達の方を向いて、はっきり話す。

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
1	学習の全体像をつかみ、「スーホの白い馬」の感想をもつことができる。	「スーホと白い馬の様子が伝わる」音読発表会を行う見通しをもつ。 おもしろかったこと・心に残ったことを考えながら読もう。 範読を聞く。 おもしろかったこと、心に残ったことをノートに書く。	【関心・意欲・態度】 単元のねらいを知り、内容や学習活動に興味をもっている。 (観察)	範読を聞いて、おもしろかったこと・心に残ったことの感想を書かせるよう働きかける。
2	「スーホの白い馬」の感想をもとに、読みのめあてをもつことができる。	場面分けをして、読みのめあてをもつ。 場面ごとの出来事や感想を考えよう。 出来事・登場人物を確認する。 感想をもとにめあてをつくる。	【読むこと】 各場面の主な出来事とその流れを読み取っている。 (発言・ワークシート)	各場面の挿絵を準備し、様子の想像・内容の大体をつかむのに活用させる。
3	「にこにこしながら」という言葉に注目して動作化や言葉比べをすることにより、スーホの様子や白馬に対する愛情を想像することが出来る	1場面の音読をする。 スーホはどんな少年だったかを読み取り交流する。 スーホの様子を考えよう。 スーホのしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 「にこにこしながら」という叙述に着目して読んだ内容を交流する。	【読むこと】 モンゴルの情景や、子馬を連れてきたスーホの気持ちを叙述に即して読み、想像している。 (書き込み・発言)	スーホのしたこと、言ったことを手がかりに、様子を考えさせる。 「にこにこしながら」という叙述に着目し、言葉比べをしながら読み深めさせる。

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
4	「兄弟に言うように話しかけた」という言葉に注目して動作化や言葉比べをすることにより、スーホの様子や白馬に対する愛情を想像することが出来る。	1 場面の音読をする。 スーホの行動を動作化し、あらすじをつかむ。 スーホの様子を考えよう スーホのしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 「兄弟に言うように」という叙述に着目して読んだ内容を交流する。	【読むこと】 白馬がおおかみから羊を守ってくれたときのスーホの気持ちを叙述に即して読み想像している。 (書き込み・発言)	スーホのしたこと、言ったことを手がかりに、様子を考えさせる。 「兄弟に言うように」という叙述に着目し、言葉比べをしながら読み深めさせる。
5	「かっとなつてむちゅうで言いかえました」という言葉に注目して動作化や言葉比べをすることにより、スーホの様子や白馬に対する愛情を想像することが出来る。	2 場面の音読をする。 スーホの様子を考えよう。 スーホのしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 かっとなつてむちゅうで言いかえました。」という叙述に着目して読んだ内容を交流する。	【読むこと】 殿様に「白馬をおいて帰れ」と言われたスーホの気持ちを、叙述をもとに想像している。 (書き込み・発言)	前時の「どんなときでもぼくはおまえといっしょだよ」と関連させ「白馬をとられた悲しみ」を想像させる。
6	「走り続けました」という言葉に注目して動作化や言葉比べをすることにより、白馬の様子やスーホに対する愛情を想像することが出来る。	3 場面の音読をする。 殿様がどんな人物だったか交流する。 白馬の様子を考えよう 白馬のしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 「走りつづけました」という叙述に着目して読んだ内容を交流する。	【読むこと】 傷だらけになっても必死にスーホのもとへ帰る白馬の気持ちを、叙述をもとに想像している。 (書き込み・発言)	「おそろしいいきおいで」「風のように」といった叙述に着目し、動作化や言葉比べをしながら読み深めさせる。
7	スーホと白馬の心の結びつきの強さに着目し、白馬が死んでしまったときのスーホの悲しみや寂しさの深さを読み取ることが出来る。	3 場面の音読をする。 スーホの行動を動作化して、あらすじをつかむ。 スーホの様子を考えよう。 スーホと白馬のしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 「つぎの日、白馬は死んでしまいました。」という叙述に着目し、読んだ内容を交流する。	【読むこと】 帰ってきた白馬に接するスーホの気持ちを、叙述をもとに想像している。 (書き込み・発言)	死んでしまった事実から、スーホの悲しみや感謝・殿様への怒り・寂しさなど、多様な読み取りを引き出す。  次時につなげるために、特に寂しさを押さえておく。

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
8	1場面の「これから先、どんなときでも、ぼくとおまえは一緒だよ」という叙述と結びつけて、スーホの思いを想像することができる。	4場面の音読をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">スーホの様子を考えよう。</div> スーホと白馬のしたこと・言ったことを明らかにし、動作化や言葉比べをして様子を想像する。 「いつまでもあなたのそばにいられますから」という叙述に着目し、読んだ内容を交流する。	【読むこと】 馬頭琴を作って弾くスーホの気持ちを叙述をもとに想像している。 (書き込み・発言)	白馬の死によって、スーホと白馬が別れ別れになってしまった事実を押さえる。 「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえと一緒にだよ」の言葉と結びつけて考えさせる。
9	音読する場面を決めて、読み取った内容が伝わるように読もうと意欲をもつことができる。	全文を音読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「スーホと白い馬の様子が伝わる」音読をしよう。</div> 自分の読みたい場面を決めて、様子が伝わるよう工夫して音読をする。	【意欲・関心・態度】 学習内容をつかみ、学習活動に興味をもっている。 (観察・観察) 【読むこと】 読み取った気持ちや場面の様子が伝わるように声に出して読んでいる。(音読・評価カード)	今までの学習の中で、スーホの白馬に対する思いがよくわかったよ、という場面を選ばせる。 音読の工夫を例に出しながら、自分の伝えたいことをどのように読むか考えさせる。
10 11 12	・めあてが伝わったかどうか ・練習してよくなったところ を意識して音読練習に取り組み、よりよい音読にしようとして練習することができる。	自分の読むめあてを決める <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">読み取った内容が伝わるような音読をしよう。</div> 同じ場面を読む2人組で音読を聞きあい、助言しあいながら練習する。 相手を変えて練習する。	【読むこと】 読み取った気持ちや場面の様子が伝わるように声に出して読んでいる。 (音読・評価カード)	評価カードに、 ・めあてが伝わったかどうか ・(相手から)上手だと思ったところ ・練習してよくなったところが書き、達成感を持たせる。
13	読み取った内容が伝わるように読むことができる。	学習発表会で「スーホの白い馬」の音読を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「スーホと白い馬の気持ちが伝わる」音読をしよう。</div> 評価カードで自分の音読を振り返る。 感想を交流する。	【読むこと】 読み取った気持ちや場面の様子が伝わるよう声に出して読んでいる。(音読・評価カード)	相手から簡単なメッセージがもらえるようカードを準備しておく。